



第 6 号

平成19年 3月 1日

発行所
福島県立二本松工業高等学校同窓会
〒964-0937
福島県二本松市榎戸1丁目58ノ2
TEL 0243-23-0960
FAX 0243-22-7388
発行者 菅野吉三
印刷 株式会社丸井工文社

福島県立二本松工業高等学校 同窓会 会 報

校 歌

詞 草野心平
曲 小山清茂

一日輪は 天にかがやき
阿武隈は 光る動脈
ここ榎戸の 美しき地に
日毎集る われら若人
腕組まん ともに
学ばなん ともに
真善美 ひたに求めて
ああ母校 二本松
われらは愛す
われらが母校

C O N T E N T S

| | |
|--------------|----|
| 同窓会会長挨拶 | 2 |
| 学校長挨拶 | 3 |
| 第二期工事実習棟改築記録 | 4 |
| 卒業生数 | 5 |
| 寄稿 | 6 |
| 第一種電気工事士試験合格 | 7 |
| 同窓会だより | 8 |
| 母校だより | 10 |



同窓会会長挨拶



菅野 吉三

プロフィール

昭和42年度卒業機械科四期生
テクノメタル(株)勤務、地域の小・中学校の育成活動及び支援活動等世話役活動継続中、団塊世代の今後の頑張りが肝要と銘じ奮闘中

「団塊世代の活躍を期待」

会員皆様方には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

二〇〇七年問題は経済面をはじめ産業面、少子高齢化による大きな影響を受ける年金給付や税制の見直し等、数多くの分野から課題と具体的な施策が求められている現況です。

昭和二二年から二四年生まれの約六八〇万人と言われる団塊の世代は、高度経済成長の原動力となり、幾多の経済変動の中から這い上がり、国際競争力を培ってきた世代でもあります。

その世代による各分野に与える影

響は、多額の個人金融資産の活用から消費生活を、大きく変えるものと見られています。

第一期生の方々が六〇歳定年退職を迎え、引き続き団塊世代の一斉退職や人口減少化傾向は、期待と不安の様相を呈しています。

団塊世代の担ってきた役割は其々の立場で感慨深く、六〇歳定年退職が人生の節目とするならば、以降のライフスタイルは、趣味・余暇の活用へとスローライフを実践される方もあるでしょう。

また定年延長や再雇用等の雇用形態は違っても、元来の勤勉性から雇用継続を図りながら社会貢献への希望を持ち、働く価値観を尊重し生活

の指針・糧とする考える方も、比較的多いと推察致します。

継続雇用は品質確保や安全確保の観点から、技能・技術の伝承を、製造業はじめあらゆる産業・経済システムの中で、ノウハウの継承を担う重要な責務として期待をされており

ます。いずれのライフスタイルであつても、社会・生活環境の中で人生の目標を持ちながら、自己実現への努力が不可欠であることは、論をまたないところであります。

次に松工の近況は実習棟の第二期改築工事も順調に進み、学科改編による高度な技術習得の環境整備として、完成致しました。

第二期工事は鑄造・鍛造実習室や都市システム施工室、材料試験室等からなり榎戸の台地に白亜の近代的な実習棟として、後輩の活躍の場に活用が期待される所です。訪れて下さるよう念願致します。

学業面では栗村校長と教職員一丸となり「実社会に通用する人材の育成」を目標に、各種の資格・大会等へ参加し、前号でも紹介の通り継続的な成果を修めております。

特に松工創立以来最高の第一種電気工事士試験で、二〇人が合格し金字塔を建てる快挙を遂げました。

多岐に亘る数多くの資格取得実績は、全国の工業高校の中でも上位に位置する報告を、評議員会の中でも説明を頂いております。

今後も情報化の分野・環境は更に進化するものであり、将来の都市システムに対応可能な実践的技術者の育成を図りながら、工業高校の品格と松工ブランドの構築に精進されるよう期待致すものです。

同窓会も団塊世代の大量退職による、個々人の技術継承機会の創出になり、関り合えればと、想いが募るところであります。

教育再生が最重要課題の一つとして、教育の正常化・ゆとり教育の見直し等、問題になっています。

幸い松工は厳格な指導要綱に基づき、健全な教育環境にあり前述の成果として実証されております。

更に良い環境づくりに直接的な関与は無理でも、地域・職場で規範意識の醸成となる一助を数少ない機会と思いますが、必要である認識をもたれ対応頂きたいと願います。

最後に松工創立五〇周年を三年後に控え、学校関係各位とPTA関係者との連携を密にし、同窓会の責務を果たして参ります。

皆様方のご健勝を祈念しあいさつと致します。

学 校 長 挨 拶



栗村 知

プロフィール

〔会津生れの浜育ち〕会津喜多方市で生まれ、いわき市平で育つ。専門教科工業（機械）。趣味 テニス。二本松工業高、埼玉工業高、川俣高、福島工業高、教育センター、教育委員会、勿来工業高、小高工業高を歴任され、平成17年4月本校に着任、現在に至る。

「学科改編・三学科体制の中で」

本校は昭和三十七年四月、地域社会からの強い要請により、産業教育振興と中堅技術者養成を使命とし、安達地区唯一の県立工業高校として、この地「榎戸の丘」に開設されました。以来四〇数年、単立した同窓生は九五四四名を数えるに至り、工業界はもとよりあらゆる分野で活躍されておられますことは、誠に心強いものであります。

本校同窓会は、これまで、菅野吉

三会長はじめ役員の方々を中心に本校の発展に大きく寄与されてこられました。様々な事業・活動を通じて教育環境の維持・向上に重要な役割をはたされておられますことに、心より感謝申し上げます。お陰様で、本日ここに第四三回卒業式を迎え、新たに一九二名を送り出すことになりました。社会に出て何よりも頼りになり支えになるのは、同窓会の皆様の存在であります。新社会人となる後輩たちに、是非、温かいご支援をお願いいたします。

今年度の卒業生は、平成一六年度に実施した学科改編の第一期生として、機械システム、情報システム、

都市システムの三学科体制のなかで学んで来ました。その内容は次のようになります。

○機械システム科

テクニカル・プランニング・ロボット制御の三コースにより、システム化された製造技術に対応できる能力の育成を目指す。

○情報システム科

エレクトリック・コンピューター・デザイン・情報デザインの四コースにより、「情報」を専門分野の中央に位置づけ、様々な課題の対応できる能力の育成を目指す。

○都市システム科

都市システムエンジニア・環境プランニングの二コースにより、自然環境との調和を図りながら、ITを活用した都市づくりに対応できる能力の育成を目指す。

三科に共通するのは、それぞれの専門分野における課題に対し、主体的に考え、判断し、解決できる実践的技術者を育成することであります。

さらに、学習環境の改善も、左記

の日程で進められました。

○第一実習棟（改築）

三二五㎡ 一七一年一月

○第二実習棟（改築）

三三一㎡ 一九二年二月

○体育館（耐震補強工事）

一九一年一月

この二月には第二実習棟が完成し、引越しも完了いたしました。昨年度完成した第一実習棟は、中央に通路、その両側に実習室が配置され、通路部分は二階まで吹き抜けになっており、自然採光を十分に採り入れたすばらしい建物になっております。

このように、学科改編の進行と共に新たな環境の整う中、本校の存在意義は生徒諸君の進路実現にあると考え、「実社会に通用する人材の育成」をスローガンに掲げ、教育活動に勤しんでおります。

同窓会の皆様におかれましては、どうぞ本校の取り組みにご理解を頂き、温かいご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の方々の一層のご健勝をお祈り申し上げます。ご挨拶といたします。



第二期工事
実習棟
改築記録



2006.1.10



2006.1.10



2005.12.27



2006.1.12



2006.1.11



2006.1.10



2006.1.31



2006.1.27



2006.1.24



2006.1.24



2006.10.18



2006.10.18



2006.2.17



2006.2.3



2006.11.16



2006.11.1



2006.10.31



2007.2.6



2007.1.25



2006.11.18

■ 卒 業 生 数 ■

| 回数 | 年度 | 機械科 | 電気科 | 電子科 | 土木科 | 工業デザイン科 | 合計 |
|----|------|-------|-------|-------|-------|---------|-------|
| 1 | 昭和39 | 42 | 46 | — | — | — | 88 |
| 2 | 40 | 94 | 48 | 48 | 45 | — | 235 |
| 3 | 41 | 93 | 48 | 46 | 47 | — | 234 |
| 4 | 42 | 99 | 47 | 48 | 49 | — | 243 |
| 5 | 43 | 98 | 50 | 47 | 48 | — | 243 |
| 6 | 44 | 89 | 47 | 47 | 46 | — | 229 |
| 7 | 45 | 86 | 45 | 46 | 45 | — | 222 |
| 8 | 46 | 85 | 37 | 45 | 42 | 45 | 254 |
| 9 | 47 | 87 | 43 | 44 | 44 | 44 | 262 |
| 10 | 48 | 82 | 43 | 41 | 43 | 40 | 249 |
| 11 | 49 | 79 | 38 | 39 | 39 | 41 | 236 |
| 12 | 50 | 78 | 40 | 39 | 35 | 38 | 230 |
| 13 | 51 | 79 | 39 | 40 | 38 | 40 | 236 |
| 14 | 52 | 77 | 43 | 44 | 43 | 37 | 244 |
| 15 | 53 | 77 | 40 | 39 | 38 | 40 | 234 |
| 16 | 54 | 77 | 36 | 44 | 40 | 41 | 238 |
| 17 | 55 | 79 | 45 | 41 | 38 | 39 | 242 |
| 18 | 56 | 79 | 37 | 45 | 42 | 42 | 245 |
| 19 | 57 | 80 | 42 | 41 | 41 | 39 | 243 |
| 20 | 58 | 76 | 38 | 37 | 36 | 40 | 227 |
| 21 | 59 | 69 | 38 | 38 | 36 | 38 | 219 |
| 22 | 60 | 79 | 42 | 42 | 39 | 41 | 243 |
| 23 | 61 | 76 | 40 | 40 | 35 | 39 | 230 |
| 24 | 62 | 75 | 39 | 39 | 34 | 38 | 225 |
| 25 | 63 | 82 | 41 | 41 | 39 | 42 | 245 |
| 26 | 平成 | 83 | 39 | 42 | 36 | 40 | 240 |
| 27 | 2 | 81 | 42 | 42 | 42 | 41 | 248 |
| 28 | 3 | 81 | 42 | 39 | 41 | 36 | 239 |
| 29 | 4 | 79 | 39 | 41 | 40 | 38 | 237 |
| 30 | 5 | 77 | 40 | 40 | 39 | 38 | 234 |
| 31 | 6 | 80 | 35 | 37 | 40 | 38 | 230 |
| 32 | 7 | 78 | 38 | 37 | 37 | 38 | 228 |
| 33 | 8 | 67 | 29 | 26 | 35 | 40 | 197 |
| 34 | 9 | 69 | 39 | 36 | 37 | 33 | 214 |
| 35 | 10 | 68 | 37 | 38 | 37 | 33 | 213 |
| 36 | 11 | 66 | 34 | 34 | 34 | 34 | 202 |
| 37 | 12 | 75 | 37 | 37 | 35 | 39 | 223 |
| 38 | 13 | 75 | 37 | 39 | 38 | 34 | 223 |
| 39 | 14 | 72 | 37 | 38 | 33 | 39 | 219 |
| 40 | 15 | 74 | 38 | 33 | 34 | 32 | 211 |
| 41 | 16 | 75 | 34 | 36 | 29 | 40 | 214 |
| 42 | 17 | 74 | — | 36 | 31 | 36 | 177 |
| 合計 | | 3,291 | 1,649 | 1,651 | 1,600 | 1,353 | 9,544 |

※平成18年度から機械システム科・情報システム科・都市システム科の卒業生となります。

寄稿

二本松工業高校の思い出

第八期生 三浦 真雄

平成一八年一月一八日(土) 上野のレストランで一〇人の同期生が楽しく募っている。これは、二本松工業高校の第八期生東京組同期会である。

田舎で言う「年直し」四二歳を過ぎた頃からこの会は始まった。皆、昔を思うのか。昔話から現況をちよつと紹介したい。

私は、二本松市塩沢の出身である。どうした物か、小学六年生の後半に骨髄炎を発症。

小学校の卒業式や中学校の入学式も出れなかった。とは言っても一ヶ月遅れで松葉杖を付いて中学校に入学。残念ながら中学時代の思い出は少ない。高校受験では、安達高校より実践の積める二本松工業高校を選んだ。機械科B組。佐藤栄先生のクラスである(三年間)。小柄な体格ながら登山が大好きな先生であった。我々が二年生の時、お嫁さんを貰っている。そんな栄先生が、このクラスは色々な行事(松高はクラス対抗のサッカー大会、駅伝などいっぱい催しがあった。)があるけど優勝したことが無い。ちよつと寂しそ

うに言われた。それを聞いたクラスメンは発奮して、サッカー大会で優勝した。そのサッカー期間中、他のクラス担任の先生が仲間の応援に腹を立てて威嚇した。職員室へ抗議に行ったのも思い出です。生徒会長として、創立一〇周年の松工祭を運営出来たのも楽しい思い出です。卒業と同時に今も勤める日本ユニシス(旧日本ユニバック)に就職した。

二進数や八進数も知らずに飛び込んだ、コンピュータの世界。証券会社、地方銀行、都市銀行のシステムを構築し、保守サービスも行い早や三五年経つ。現在も大きなシステムの開発プロジェクトにいる。時代は汎用機からオープンシステムへ。覚える技術は無数にあり、今後も勉強は尽きない。

母校の益々の発展とすばらしい未来を遠方よりお祈りします。

〔追〕三浦君は塩沢出身です。八代生徒会長として活躍し高卒ながら、コンピュータ会社へ入社しました。

齋藤 実

新実習棟落成記念

同窓会会長より写真のような観葉植物が学校長に贈呈されました。



第一種電気工事士試験合格

一年生二名・二年生八名・三年生一〇名

難関に20人合格！

第一種電気工事士試験
 昨年の3倍、県内最多



二本松市の二本松工高の一年生から三年生まで合わせて二〇人が、国家資格の第一種電気工事士試験に合格した。高校生にとって難しいとされる同試験で二〇人の合格者を出したのは同校で初めて。昨年の七人から一挙に三倍近くに、県内トップの合格者数となった。一年生の合格者も出るなど、生徒の頑張りに学校関係者は目を細めている。

第一種電気工事士は、ビルや工場などの最大電力五〇〇キロワット未満の電気工作物や外線工事に従事できる資格。今回は全国で約二六四〇〇人が受験し合格率は二八・八%だった。同校の合格率は五八・八%。

同校では、資格試験取得を希望する生徒に教諭らが特別態勢を組んで指導している。第一種電気工事士試験対策では、小泉貞一教諭らが中心となって昨年六月から課外授業を行った。夏休みもほぼ毎日補習を続け、二泊三日の合宿も実施した。合格者の三分の一を占める運動部の生徒は、部活動が終わってから、毎日夜遅くまで補習授業に臨んだという。

一〇月の筆記試験から一二月の実技試験に進み、今月一〇日に最終合格発表が行われた。三年生一〇人、二年生八人、一年生二人が見事

合格を果たした。

東北工業大に進学が決まっている冬室佳明君（三年）は「サッカー部の練習が終わってからの勉強は大変だったが、昨年合格できなかった悔しさをバネに頑張った」と語った。一年生で合格を果たした鈴木道明君と渡辺徹君はそれぞれ「合格にビックリした」「一生懸命教えていただいた先生に感謝しています」と話している。

一、二年生の合格者は、さらに難関の第三種電気主任技術者の受験を希望しているという。栗村知校長は「チャレンジする生徒が増えていることに加え、落ちても再挑戦しようとする機運が高まっていることがうれしい」と生徒たちをたたえている。合格者は次の通り（カッコ内は出身中）。

▽一年Ⅱ鈴木道明（小浜）渡辺徹（二本松二）
 ▽二年Ⅱ浅川功喜（二本松二）菅野裕太（岩代）
 戸勝也、服部祐樹（東和）渡辺周次（大玉）
 遠藤広一、菅野裕樹（安達）
 田代裕也（郡山四）
 ▽三年Ⅱ菅野祐樹（二本松一）
 平形隼（信夫）冬室佳明（本宮一）
 渡辺裕大（大玉）遠藤章広（本宮一）
 遠藤淳（岩代）菅野晃平（二本松二）
 本多智行（小浜）渡辺和平（小浜）
 渡辺正樹（二本松二）



平成一八年度同窓会総会は、栗村校長先生方々のご臨席を賜り、七月二九日(土)ウエディングパレスかねすいで行われました。
収支決算・予算は下記のとおりです。役員については前年度に引き続いて承認され、なおかつ、理事として

■ 総 会 報 告 ■

同窓会
だより



て六名の方が加わり、承認されました。総会にて会長より学校長に観葉植物が贈呈されました。総会后、なかなか懇親会が行われました。

平成17年度 同窓会収支決算書

1. 収入の部 1,850,853円

| 科 目 | 17年度予算額 | 17年度決算額 | 増 減 | 備 考 |
|-----|-----------|-----------|---------|-------------|
| 会 費 | 895,000 | 885,000 | △10,000 | 177人×5,000円 |
| 入会金 | 400,000 | 400,000 | 0 | 200人×2,000円 |
| 雑収入 | 5 | 8 | 3 | 預金利息 |
| 繰越金 | 565,845 | 565,845 | 0 | |
| 計 | 1,860,850 | 1,850,853 | △9,997 | |

2. 支出の部 1,152,817円

| 科 目 | 17年度予算額 | 17年度決算額 | 増 減 | 備 考 |
|-------|-----------|-----------|---------|----------------|
| 会議費 | 230,000 | 116,410 | 113,590 | 役員会、総会 |
| 行事費 | 80,000 | 21,600 | 58,400 | 入会式 |
| 通信費 | 80,000 | 30,000 | 50,000 | ハガキ、切手 |
| 会報費 | 430,000 | 350,511 | 79,486 | 会報発行 |
| 慶弔費 | 70,000 | 20,040 | 49,960 | 香典、その他 |
| 記念品費 | 230,000 | 157,836 | 72,164 | 卒業記念品(証書バインダー) |
| 後援費 | 250,000 | 52,550 | 197,450 | 激励金、広告 |
| 事業積立金 | 250,000 | 300,000 | △50,000 | |
| 事務費 | 210,000 | 103,870 | 106,130 | 事務用品等 |
| 予備費 | 30,850 | 0 | 30,850 | |
| 計 | 1,860,850 | 1,152,817 | 708,033 | |

3. 残額 698,036円

平成18年度 同窓会収支予算書

1. 収入の部 2,063,040円

| 科 目 | 17年度予算額 | 18年度予算額 | 増 減 | 備 考 |
|-----|-----------|-----------|---------|-------------|
| 会 費 | 895,000 | 965,000 | 70,000 | 193人×5,000円 |
| 入会金 | 400,000 | 400,000 | 0 | 200人×2,000円 |
| 雑収入 | 5 | 4 | △1 | 預金利息等 |
| 繰越金 | 565,845 | 698,036 | 132,191 | |
| 計 | 1,860,850 | 2,063,040 | 202,190 | |

2. 支出の部 2,063,040円

| 科 目 | 17年度予算額 | 18年度予算額 | 増 減 | 備 考 |
|-------|-----------|-----------|----------|----------------|
| 会議費 | 230,000 | 220,000 | △10,000 | 役員会、同窓会総会 |
| 行事費 | 80,000 | 70,000 | △10,000 | 入会式 |
| 通信費 | 80,000 | 70,000 | △10,000 | ハガキ、切手 |
| 会報費 | 430,000 | 220,000 | △210,000 | 会報発行 |
| 慶弔費 | 70,000 | 60,000 | △10,000 | 香典、その他 |
| 記念品費 | 230,000 | 210,000 | △20,000 | 卒業記念品 |
| 後援費 | 250,000 | 220,000 | △30,000 | 激励金、広告 |
| 事業費 | - | 400,000 | 400,000 | 会報発送・観葉植物等 |
| 事業積立金 | 250,000 | 300,000 | 50,000 | |
| 事務費 | 210,000 | 260,000 | 50,000 | データ有償管理費、事務用品等 |
| 予備費 | 30,850 | 33,040 | 2,190 | |
| 計 | 1,860,850 | 2,063,040 | 202,190 | |

歳出予算科目に過不足が生じたときは、会長に限り各科目間において流用することが出来る。

■ 平成18年度役員 ■

| 役職 | 氏名 | 卒業年度 | 学 科 |
|-----------|-------------|---------|------|
| 会 長 | 菅野 吉三 | 42 | 機 械 |
| | 丹治 茂雄 | 40 | 機 械 |
| | 佐藤 忠司 | 40 | 土 木 |
| | 大内 正人 | 44 | 電 気 |
| 副 会 長 | 大津 正吉 | 48 | デザイン |
| | 斎藤 実 | 46 | 機 械 |
| 会 監 | 菊地 清義 | 44 | 電 気 |
| | 鈴木 昭市 | 49 | 土 木 |
| 理 事 | 佐々木 久美子(新任) | 57 | デザイン |
| | 渡辺 和成 | 39 | 機 械 |
| | 秋山 孝雄(新任) | 39 | 機 械 |
| | 大内 庄五郎 | 41 | 電 子 |
| | 丹野 武志 | 41 | 土 木 |
| | 星 光 | 42 | 機 械 |
| | 阿部 昭一 | 42 | 土 木 |
| | 安齋 喜八 | 42 | 土 木 |
| | 本多 真一 | 42 | 土 木 |
| | 野地 一司 | 44 | 機 械 |
| | 尾形 巳芳 | 47 | 電 気 |
| | 半澤 秋子 | 48 | デザイン |
| | 高橋 薫 | 49 | 機 械 |
| | 熊谷 勝則(新任) | 49 | 土 木 |
| | 橋本 正一(新任) | 51 | 土 木 |
| | 安斎 邦衛(新任) | 54 | 機 械 |
| | 山川 博徳 | 55 | 土 木 |
| | 鈴木 新栄 | 57 | 機 械 |
| | 清水 実(新任) | 57 | 電 子 |
| | 渡辺 恵美子 | 57 | デザイン |
| 大内 友子 | 59 | デザイン | |
| 朝倉 宏揮 | 62 | 土 木 | |
| 高橋 周平 | 05 | 電 子 | |
| 丹野 勇弥 | 07 | 土 木 | |
| 事務局 長 | 星 諒二 | | |
| 事務局 次長 | 渡辺 保三 | 高 橋 薫 | |
| 事務局・会計 顧問 | 大小 柳正 | | |
| | 形 元治 | 初 代 会 長 | |
| | 鈴木 清利 | 2 代 会 長 | |
| | 阿相 利昭 | 前 学 校 長 | |
| | 佐藤 村知 | | |

選考委員会 委員長 佐藤忠司 副委員長 秋山孝雄 委員 高橋薫 渡辺保夫 大柳正三
 会報委員会 委員長 丹治茂雄 委員 本田新栄 鈴木周平 高橋周平 大柳正三



■ 同窓会入会式 ■

第四二回同窓会入会式は二月二八日、母校体育館で行われました。菅野吉三同窓会会長より次の皆さんが幹事に任命されました。よろしくお願い致します。

- 機械科 A組 遠藤 純一
- 機械科 B組 大内 竜哉
- 電子科 安藤 晃
- 土木科 和田 智
- 工業デザイン科 橋本 朋久

個人情報保護法について

さて、皆様もご承知のとおり「個人情報保護法」が施行されます。私ども同窓会においても会員の皆様の個人情報について、管理の徹底・安全対策を充分に図って参ります。なお、住所変更や個人情報についてのお問い合わせは、本会事務局にご連絡をお願い申し上げます。

福島県立二本松工業高等学校 同窓会事務局
 tel 0243-23-0960

松工テレフォンサービス (0243) 62-3330
 松工Eメールアドレス netmaster@nihonmatsu-th.fks.ed.jp
 松工ホームページアドレス http://www.nihonmatsu-th.fks.ed.jp

編集後記

第二期実習棟改築工事も終わり、古い実習棟の解体工事が終われば、工事も一段落ということになります。体育館の窓枠の工事も終わりました。前回の会報は昭和四四年度、昭和四八年度に卒業された方々に送らせて頂きました。今回の会報については昭和四九年度、五八年度に卒業された方々にお送りしたいと思います。

これを機に事務局では多数の同窓生に会報を読んでそして見て頂ける準備しております。クラス会や社内の同窓会などにご活用下さい。平成一九年度はくろがね祭も予定されますので学校にお訪ね下さい。

会報委員長 丹治 茂雄
 委員 本田 正
 鈴木 新栄
 高橋 周平
 事務局 大柳 正三

母校 だより

同窓会特別賞

平成一八年二月二八日
カヌー部 和田 恭平



平成一八年五月八日

国際ジュニアレガッタオープン
決勝戦 一〇〇〇m七位
五〇〇m九位



平成一八年六月二二日

ソフトテニス部 宗形 儀茂
他九名
東北高等学校ソフトテニス選手
権大会



平成一八年七月七日

情報システム科 遠藤 広一
高校生ものづくりコンテスト二
〇〇六東北大会
電子回路組立部門 第四位



平成一八年七月二四日

水泳部 市川 航
東北水泳大会
東北高等学校選手権水泳競技大会
日本高等学校選手権水泳競技大
会予選会



平成一八年七月二四日

カヌー部 和田 恭平
他七名
全国高等学校総合体育大会
カヌー競技



平成一八年七月二四日

情報システム科 佐藤 淳子
白川 由佳
全国高等学校総合文化祭



平成一八年八月一日

水泳部 市川 航
全国高等学校総合体育大会水泳
競技大会
日本高等学校選手権水泳競技大会



平成一八年九月二九日

カヌー部 和田 恭平
のじぎく兵庫国体 大匠
（和）少年男子カヤックシ
ングル 二〇〇m予選まで
五〇〇m進決まで



平成一八年九月二九日

カヌー部 齋藤 飛華
のじぎく兵庫国体
スラロームレーシング
25G(デイト) 25人中16位



平成一八年九月二九日

機械科 遠藤 勇磨
他六名
全国高等学校ロボット競技大会

